

生きる権利を奪い、再び戦争する国にしないよう 憲法の改悪をくい止めよう

私たち福祉労働者は、日々、子ども、障害者、高齢者と向かい合う仕事を通じて、いのち生命の重さを実感しています。「平和憲法」に裏付けられた、「福祉」の実践者として、この「生命」が戦争で奪われることを決して許しはしません。

日本は唯一の被爆国であり、また、アジアの諸国民や日本の多くの尊い命を犠牲にして、「二度と戦争をしない」世界に誇る「平和憲法」を手にしました。

しかし今、小泉政権はアメリカ・ブッシュ政権に追随して、イラク侵略戦争を支持し、自衛隊に武器を持たせて多国籍軍に参加させました。さらに、自民党は、国連の安全保障理事会・常任理事国入りをめざし、憲法九条改定を柱にした憲法改悪案を二〇〇五年に策定することを公約に掲げました。また、民主党も、国連決議があれば海外での武力行使が可能になるよう憲法を「改正」すべきだとしています。いま国会は「改憲派」が多数を占めています。憲法を改悪し、アメリカに追随して世界のどこにでも出かけて「戦争する国」にする危険が、かつてなく高まっています。

平和憲法は、第二五条で、「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を謳っています。しかし、小泉内閣は、医療制度、年金制度の大改悪をすすめ、国民の命を危険にさらし、暮らしの破壊を押しすすめています。その上に、憲法二五条を改悪し、社会福祉における国の責任と義務を放棄し、国民に「自立・自助」の理念を押しつけ、福祉を破壊しようとしています。

こうした危険な動きは、あらためて私たち国民に「戦争か平和か」「大砲かバター」かの選択を鋭く問っています。作家の大江健三郎さんや井上ひさしさんら日本を代表する知識人九人が平和憲法を守るといふ一点で、『九条の会』を立ち上げ、「一人ひとり、あらゆる努力をいまずぐ始めよう」と訴えています。いま職場・地域でこのアピールに添えて「憲法守れ」の声が広がってきています。福祉に働く私たちは、『九条の会』の呼びかけを支持するとともに、『九条・二五条の会』を立ち上げ、「戦争という名の大量殺人」を「正義」とし、生活破壊をすすめる憲法の改悪をくい止めるために全力をあげ、とりくみをすすめます。

福祉に働く仲間みなさん。利用者・国民みなさん。

私たちと共に、誰もが平和のうちに人間らしく暮らせる日本をつくるため、平和憲法を守る行動に立ち上がりましょう。